

日本長老教会

礼 拝 式 文

礼 拝 式 文

目 次

各礼拝式文の特徴	4
礼拝式文 1	7
洗礼	24
主の聖晩餐	32
礼拝式文 2	41
洗礼	50
主の聖晩餐	55
礼拝式文 3	61

礼拝式文

礼拝式文の特徴

- * ここには3種類の礼拝式文があり、それぞれ異なる特徴を備えています。各地区教会の礼拝事情や礼拝式文のそれぞれの特徴をふまえて使用すると効果的です。
- * 礼拝式文1は、長いキリスト教会の礼拝の伝統、特に長老改革派教会の伝統を踏まえるとともに、昨今の礼拝刷新の動きにも注意しながら作成されたものです。伝統的な言葉遣いや応答的な要素が多く見られます。また、罪の告白と赦しの宣言という長老改革派教会の伝統を積極的に取り入れています。
- * 礼拝式文2は、日本長老教会の礼拝の伝統を踏まえたもので、聖書的であり、簡潔であることを特徴としています。主の聖晚餐と洗礼の式文には、1977年に制定され、2004年に改訂された「日本長老教会式文」を取り入れています。
- * 礼拝式文3は、プレイズソングやワーシップソングと呼ばれる、現代的な礼拝音楽を積極的に取り入れることを前提に作成されたものです。各教会の必要に応じて、楽器の編成や礼拝の導きなどを工夫して用いてください。

礼拝式文の使い方

- * この礼拝式文は、各地区教会等の実際の礼拝において使用できるものとして大会が推薦するものです。教会の礼拝事情に合わせて自由にお使いください。
- * 礼拝の中の各要素には複数の具体例（A, B, C, D）を提示しているので、その中から選択して用いることができます。
- * 各要素の順序の入替え、省略などの可能性を「optional」において示しているので、自由に選択して使用することができます。
- * 具体例はそのまま用いることもできますし、それぞれの教会の事情や、その時々々の礼拝のテーマに合わせて修正したり、新たに作成したりするなど、牧師や小会が自由に工夫することができます。
- * 礼拝時間は各教会において異なっているでしょうから、この礼拝式文案を使う際には、全体の所要時間、各要素の時間配分などを考えて、適宜に削除、修正などして用いることが望ましいと思います。

文体、ことば

- * 文体は口語体を基本としていますが、一部文語体が使われている箇所があります（主の祈り、使徒信条）。
- * 司式者のことばに「～しましょう。」ということば遣いを用いているのは、会衆の礼拝への参与を促すためです。違和感がある場合には、ふさわしい用語に適宜修正することができます。
- * なお、礼拝式文に関するご意見やご要望は、遠慮なく礼拝式文検討委員会にお寄せください。

礼 拜 式 文 1

礼拝式文 1 (全体の流れ)

I. 神の民の集い

礼拝の招き (あいさつ、礼拝の招き)

賛美の歌

祈り

罪の告白 (罪の告白の招き、罪の告白の祈り)

赦しの確証

平和のあいさつ

賛美の歌

II. みことばの宣教

祈り

聖書

説教 (祈り)

III. みことばへの応答・献身

賛美の歌

信仰告白

ささげもの (献金)

とりなしの祈り

(聖晩餐がある場合)

VI. 主の聖晩餐

制定のみことば

聖晩餐の教え

感謝と聖別(主の祈り)

平和のあいさつ

パン裂き

陪餐 (招き、配餐)

感謝と賛美

(洗礼がある場合)

V. 洗礼

制定のみことば

洗礼のおしえ

信仰告白(使徒信条)

誓約

祈り

洗礼

祈り

会衆の誓約/歓迎

IV. 派遣

賛美の歌

祝福/祝祷

礼拝式文 1

I. 神の民の集い

礼拝の招き

あいさつ

【司式者（牧師もしくは長老）が講壇、あるいは聖餐桌の前に立ち、主の恵みをもって会衆とあいさつを交わして礼拝を導入する。応答形式ではなく、司式者の宣言でもよい。】

司式者：主イエス キリストの恵みがあなたがたすべてとともにありますように。

会 衆：主の恵みがありますように。

礼拝の招き

【神が私たちが礼拝に招いていることを示す、歓迎や恵みまた神の栄光を告げ知らせる、次のような聖書を用いることができる。会衆が積極的に礼拝に参加するために次のように応答形式であってもよい。】

司式者：恵みと愛と力に満ちた主なる神を礼拝しましょう。

A. 詩篇 95 篇 1～3 節

司式者：「さあ、主に向かって、喜び歌おう。われらの救いの岩に向かって、喜び叫ぼう。」

会 衆：「感謝の歌をもって、御前に進み行き、賛美の歌をもって、主に喜び叫ぼう。」

一 同：「主は大いなる神であり、すべての神々にまさって、大いなる王である。」

B. 詩篇 100 篇

司式者：全地よ。主に向かって喜びの声をあげよ。（1）

礼拝式文 1

会 衆：喜びをもって主に仕えよ。喜び歌いつつ御前に来たれ。(2)

司式者：知れ。主こそ神。主が、私たちを造られた。私たちは主のもの、
主の民、その牧場の羊である。(3)

会 衆：感謝しつつ、主の門に、賛美しつつ、その大庭に、はいれ。主に
感謝し、御名をほめたたえよ。(4)

一 同：主はいつくしみ深くその恵みはとこしえまで、その真実は代々
に至る。(5)

C. 詩篇 124 篇 6～8 節

司式者：ほむべきかな。主。主は私たちを彼らの歯のえじきにされなかった。
私たちは仕掛けられたわなから鳥のように助け出された。わなは破ら
れ、私たちは助け出された。(6, 7)

会 衆：私たちの助けは、天地を造られた主の御名にある。(8)

D. 詩篇 66 篇 1, 2, 4, 5, 8, 20 節

司式者：全地よ。神に向かって喜び叫べ。御名の栄光をほめ歌い、神への賛
美を栄光に輝かせよ。(1, 2)

会 衆：全地はあなたを伏し拝み、あなたにほめ歌を歌います。あなたの御
名をほめ歌います。(4)

司式者：さあ、神のみわざを見よ。神の人の子らになさることは恐ろしい。国々
の民よ。私たちの神をほめたたえよ。神への賛美の声を聞こえさせよ。
(5, 8)

会 衆：ほむべきかな。神。神は、私の祈りを退けず、御恵みを私から取り
去られなかった。(20)

(optional：あいさつと礼拝の招きの順序は入替え可能である。またあいさつを
省略してもよい。)

賛美の歌

【大いなる神をほめたたえて、詩篇歌、賛美歌などが喜びと感謝をもって歌われる。】

司式者：主を賛美しましょう。

会衆：主はほめたたえられるべき方です。

賛美の歌

(optional：この賛美と次に来る頌栄と祈願の祈りの順序は入替え可能である。会衆の応答を省略してもよい。)

祈り

【神をほめたたえる頌栄の祈りが礼拝の開会においてささげられるのがふさわしい。また、神がこの礼拝において聖霊によって力強く働いてくださるよう、へりくだって祈願することも付け加えられる。】

司式者：祈りましょう。

- A. 「全能の神よ。すべての者はあなたに向かって心を開きます。あなたはすべての願いを知られ、御前には隠されていることは何ひとつありません。どうぞ聖霊によって私たちの心の思いをきよめてください。あらゆるものをもってあなたを愛し、ふさわしい仕方であなたの聖なる御名をほめたたえられますように。私たちの主キリストの御名によって祈ります。アーメン。」
- B. 『私たちの主、主よ。あなたの御名は全地にわたり、なんと力強いことでしょう。あなたのご威光を天に置かれました。あなたは幼子と乳飲み子たちの口によって、力を打ち建てられました。(詩篇 8:1～2)』
主なる神よ。あなたがこの世界を美しく創造し、私たちの主キリストによって贖い、御霊の賜物を私たちにお与えくださったゆえに、あなたの聖なる御名を賛美いたします。それによって私たちを励まし、教え、支えてくださることを感謝いたします。いま、私たちのうちに働かれるあなたの御霊を待ち望みます。私たちのささげる賛美にいのちを与え、あなたのまことによって私たちを探り、この世界であなたに仕えるために私たちを備えさせてください。私たちの救い主イエス・キリストによって。アーメン。」

C. 「父、子、聖霊なるただひとりの神よ。

栄光に満ちたあなたの御名は、あらゆる口が賛美し、すべての舌がほめたたえ、造られたいっさいの物が礼拝するのにふさわしい御名です。あなたはこの世界を恵みによって創造し、あわれみによって贖ってくださいました。天にも地にもあなたへの賛美が満ちています。いと高き神よ。栄光をあなたにささげます。御使いと天にあるあらゆるものが、あなたを礼拝しています。小さく愚かな私たちもあなたを賛美しますが、それはただ恵みによる賜物です。どうか、しもべたちがささげる賛美を、主イエス・キリストによって受け入れてください。

恵み深い父よ。あなたの力は計り知れず、あなたの知恵はきわめられず、あなたの愛は語り尽くすことができません。あなたは私たちに永遠への思いを与え、あなたを求めて飢え渴くようにされました。あなたを見出すことができるように、またあなたにあるいのちを得ることができるように、あなたを求める願いを満たしてください。

私たちの主イエス・キリストによって祈ります。アーメン。」

(optional: 「主の祈り」を聖晩餐においてではなく、ここで一同で祈るのもよい。最初の祈りの後に頌栄や讃栄の賛美の歌が歌われてもよい。最初の祈りの後に「信仰告白」をすることもふさわしいことである。)

罪の告白

罪の告白の招き

【以下のような罪の告白の招き、あるいは赦しの約束に関する聖書のみ言葉に導かれて、一同で罪を告白する。】

司式者：神の御前に、またお互いに罪を告白しましょう。

A. ヨハネの手紙第一1章8～9節

「もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真

実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」

B. ヤコブ手紙5章15～16節

「また、もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表わし、互いのために祈りなさい。いやされるためです。義人の祈りは働くと、大きな力があります。」

C. イザヤ書55章6～7節

「主を求めよ。お会いできる間に。近くにおられるうちに、呼び求めよ。悪者はおのれの道を捨て、不法者はおのれのはかりごとを捨て去れ。主に帰れ。そうすれば、主はあわれんでくださる。私たちの神に帰れ。豊かに赦してくださるから。」

罪の告白の祈り

【罪の告白の祈りは、下記のように一同（A、C）で、また牧師と会衆の連祷（B）としてささげること、あるいは牧師がささげることでもできる。祈りの前か、間か、後で沈黙や黙祷をするとよい。祈りにはBのように聖書を用いることもできる。】

A. 一同

「あわれみ深い神よ。私たちはあなたに対して罪を犯したことを告白します。思いと言葉と行いにおいて、禁じられたことを行ない、すべきことを怠りました。私たちは心と知性と力を尽くしてあなたを愛しませんでした。自分自身のように隣人を愛することもできませんでした。あわれみのゆえに、これまでの私たちをお赦しください。今ある私たちを造り変え、私たちのこれからの歩みを導いてください。そうすれば、あなたのみ心を喜び、あなたの道を歩むことができます。あなたの聖なる御名の栄光が現われますように。アーメン。」

B. 連祷（詩篇 51 篇より）

司式者：神よ。御恵みによって、私に情けをかけ、あなたの豊かなあわれみによって、私のそむきの罪をぬぐい去ってください。（1）

会衆：どうか私の咎を、私から全く洗い去り、私の罪から、私をきよめてください。まことに、私は自分のそむきの罪を知っています。私の罪は、いつも私の目の前にあります。（2～3）

司式者：私はあなたに、ただあなたに、罪を犯し、あなたの御目に悪であることを行ないました。それゆえ、あなたが宣告される時、あなたは正しく、さばかれるとき、あなたはきよくあられます。（4）

会衆：ヒソプをもって私の罪を除いてきよめてください。そうすれば、私はきよくなります。私を洗ってください。そうすれば、私は雪よりも白くなります。（7）

司式者：御顔を私の罪から隠し、私の咎をことごとく、ぬぐい去ってください。私にきよい心を造り、ゆるがない霊を私のうちに新しくしてください。（9～10）

会衆：私をあなたの御前から、投げ捨てず、あなたの聖霊を、私から取り去らないでください。あなたの救いの喜びを、私に返し、喜んで仕える霊が、私をささえますように。（11～12）

C. 一同

「恵み深い聖なる神よ。御前に私たちの罪と過ち、あなたへの背きを告白します。あなたは、私たちがどれほどしばしば罪を犯したのかよくご存じです。私たちは、あなたの道からさ迷い出て、あなたの賜物を無駄にし、あなたの愛を忘れました。主よ。あわれんでください。私たちはあなたの御心に背いたすべてのことを恥じています。今御前にへりくだって悔い改めます。どうか私たちの罪をお赦しください。あなたの道を歩み、光の中を生きていけるよう助けてください。私たちの救い主イエス・キリストの御名によって。アーメン。

(optional : 罪の告白の後で「キリエ／主よ。あわれみたまえ。」などの嘆きや、悔改めにふさわしい賛美が歌われるのもよい。)

赦しの確証

【司式者が神の赦しの確証を告げる言葉を宣言する。聖書を用いると、罪の赦しが神の約束に基づいているという真理を強調することができる。会衆は「アーメン」、「神に感謝」などと応答するとよい。】

司式者：赦しを与えてくれる福音を聞きましょう。

A. ローマ人への手紙 8 章 34 節、コリント人への手紙 第二 5 章 17 節

「罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしていてくださるのです。」

「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」

B. 詩篇 32 篇 1～2 節

「幸いなことよ。そのそむきを赦され、罪をおおわれた人は。幸いなことよ。主が、咎をお認めにならない人、心に欺きのないその人は。」

C. 詩篇 103 篇 3～5 節

「主は、あなたのすべての咎を赦し、あなたのすべての病をいやし、あなたのいのちを穴から贖い、あなたに、恵みとあわれみとの冠をかぶらせ、あなたの一生を良いもので満たされる。あなたの若さは、わしのように、新しくなる。」

D. テモテへの手紙 第一 1 章 15 節、ペテロの手紙 第一 2 章 24 節

『「キリスト イエスは、罪人を救うためにこの世にいられた。』ということばは、まことであり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです。

そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。そ

れは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。」

会衆：アーメン。／神に感謝！

(optional：赦しの確証の直後に一同で「信仰告白」をしてから、平和のあいさつをするのもふさわしいことである。)

平和のあいさつ

【キリストによる神の赦しの恵みが平和のあいさつとして会衆に告げられ、主にある兄弟姉妹の間でも分かち合われて愛の交わりが確かめられる。牧師と会衆で平和のあいさつが交わされた後で、会衆同士が愛、恵み、平和、祝福のあいさつを交わし合うとよい。】

司式者：神はキリストによって私たちを赦してくださいましたから、私たちも互いに赦しの恵みを分かち合いましょ。

「私たちの父なる神と主イエス キリストから恵みと平和があなたがたの上にありますように。」

会衆：主の平和があなたとともに。

(optional：平和のあいさつと次の感謝の賛美とは順序を入れ替えてもよい。平和のあいさつがここでなされなければ、主の聖晩餐と結びつけられてもよい。)

賛美の歌

【赦しを与える福音を感謝して神を賛美する。Gloria in Excelsis や Gloria Patri などの伝統的な歌、詩篇歌、賛美歌などが歌われる。】

(optional：「神の戒めと献身」として、賛美の前か後に十戒や新約におけるキリストの戒めが告げられるのもよい。)

ここで「報告」がなされキリストの共同体を経験することも良い。その場合、次の聖書朗読前の祈りは照明祈祷であるとともにとりなしの祈りの牧会祈祷としてささげられてもよい。)

II. みことばの宣教

祈り

【しばしの沈黙の間において、聖霊による照明を求めて祈る。】

司式者：祈りましょう。

- A. 「主なる神よ。あなたのしもべの口の言葉と、私たちの心の思いをきよめて、あなたの御目にふさわしいものとしてください。主よ。私たちの岩、贖い主よ。キリストによって祈ります。アーメン。」
- B. 「主よ。あなたのきよい御霊の力によって、私たちの心と思いを開いてください。聖書が読まれ、みことばが宣べ伝えられるこのとき、あなたが私たちにお語りくださることを、喜びをもって聞くことができますように。キリストによって祈ります。アーメン。」
- C. 「みことばの主なる私たちのイエス・キリストよ。あなたの臨在の御力によって、私たちに神のみ心を示してください。あなたの光の中に私たちのいのちの光を見出すことができますように。あなたの御力によって私たちを強めてください。アーメン。」

(optional：照明祈祷にとりなしの祈りを加えて、いわゆる牧会祈祷をささげることにもふさわしいことである。照明祈祷は聖書朗読の後、説教の直前になされてもよい。)

聖書

【旧約聖書と新約聖書から、もしくは旧約、使徒書、福音書から朗読される。また、朗読の前後に次のような導入や応答がなされるとよい。】

(朗読前の導入) 司式者：神のみことばを聞きましょう。

(朗読後の応答) 司式者：これが主のみことばです。／これが私たちの主イエス キリストの福音です。

会 衆：アーメン。／神に感謝！／主（キリスト）に栄光！

A (1) 旧約聖書

(2) 詩篇 【詩篇は歌われるか、朗読されるか、交読されてもよい。】

(3) 新約聖書

B (1) 旧約聖書

(2) 詩篇 【詩篇は歌われるか、朗読されるか、交読されてもよい。】

(3) 使徒書

(4) 福音書

(optional：朗読される聖書が複数でなく、説教のテキストだけでもよい。聖書朗読の後で応答としてグロリア、ハレルヤ、賛美歌、詩篇などが歌われてもよい。)

説 教

説 教

(optional：聖書の前に照明祈祷がなされなかった場合には説教直前になされてもよいし、ここで牧会祈祷がささげられてもよい。)

とりなしの祈り

(optional：説教前に牧会祈祷がなされた場合には説教後のとりなしの祈りがなくてもよい。説教後に牧師がとりなしの祈りをする代わりに、次のように賛美することもあり得る。)

ヨハネ黙示録 7 章 12 節

牧 師：「アーメン。賛美と栄光と知恵と感謝と誉れと力と勢いが、永遠に私たちの神にあるように。」

会 衆：「アーメン。」

Ⅲ. みことばへの応答・献身

賛美の歌

(optional : 説教後の賛美の歌と信仰告白の順序は入替え可能である。)

*洗礼を執り行う場合には、「V. 洗礼 制定のみことば」に続く。(24 ページ)

信仰告白

【使徒信条、ニカイヤ信条、あるいは聖書やその他の信仰告白などからなされる。古代教会の信条を告白するのが伝統的だが、礼拝のテーマなどによってその他の歴史的な信仰告白を用いることもできる。】

A. 使徒信条

わたしは天地の造り主、全能の父である神を信じます。

わたしはそのひとり子、わたしたちの主イエス キリストを信じます。主は聖霊によってやどり、おとめマリアより生まれ、ポンテオ ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、よみにくだり、三日目に死人のうちからよみがえり、天にのぼられました。そして全能の父である神の右に座しておられます。そこから来られて、生きている者と死んでいる者とをさばかれます。

わたしは聖霊を信じます。きよい共同の教会、聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、永遠のいのちを信じます。 アーメン。

B. ニカイヤ信条

私たちは、ただひとりの神、すべてを支配される父、天と地と見えるものと見えないもののすべての造り主を信じます。

またただひとりの主イエス キリストを信じます。主は神のみ子、御ひとり子であって、世々に先立って父から生まれ、光からの光、まことの神か

らのまことの神、造られたのではなくて生まれ、父と同質であって、すべてのものは主によって造られました。主は人間である私たちのために、私たちの救いのために、天からくだり、聖霊によりおとめマリアによって受肉し、人となり、私たちのためにポンティオ ピラトのもとで十字架につけられ、苦しみを受け、葬られ、聖書にあるとおり三日目に復活し、天にのぼられました。そして父の右に座しておられます。また生きている者と死んだ者をさばくために、栄光のうちに再び来られます。その御国は終わることがありません。

また聖霊を信じます。聖霊は主、いのちの与え主であり、父と子からでて、父と子とともに礼拝され、共に栄光を帰せられます。そして預言者によって語られました。私たちは、一つの聖なる公同の使徒的な教会を信じます。罪の赦しのためのひとつのバプテスマを認めます。死者の復活と、来たるべき世のいのちを待ち望みます。アーメン。

C. 聖書から

詩篇 23 篇、46 篇、ピリピ人への手紙 2 章 5～11 節、コロサイ人への手紙 1 章 15～20 節など

(optional : 信仰告白を礼拝の前部である最初の祈りの後や赦しの確証の後に
行なうのもよい。)

*主の聖晩餐を執り行う場合には、「VI. 主の聖晩餐 制定のみことば」に続く。
(32 ページ)

ささげもの (献金)

【ささげもの (献金) は神への感謝と私たちの献身のしるしとしてささげられる。牧師は次のように告げる。】

司式者：喜びとともに、私たちの感謝と神への献身を献金によって主にささげ
ましょう。

「地とそれに満ちているもの、世界とその中に住むものは主のものである。」

(optional : ささげものを集める時に、音楽を奏でたり、聖歌隊などが 賛美を歌ったり、一同で賛美を歌うこともふさわしいことである。)

とりなしの祈り

【牧師、長老、執事、あるいは会衆のたれかが、とりなしの祈りをささげる。祈りの内容として、各地区教会と公同教会のため、世界と国々のため、あらゆる奉仕者や働き人のため、家庭をはじめ職場や学校あらゆる地域共同体のため、困難な中にある人たち、迫害されている人、病人、また特別な必要のある人々のために祈る。牧師は次のように告げて祈りを導く。】

司式者：「私たちの助けは、天地を造られた主の御名にある。」(詩篇124:8)

さあ、感謝ととりなしの祈りをささげましょう。

とりなしの祈り：

(optional : ささげものととりなしの祈りは、説教や信仰告白の後、聖晩餐の前に位置付けることもできる。とりなしの祈りの前に「報告」がなされることも良い。そうすれば、祈りの課題を提供することになる。主の聖晩餐がなされない時には、説教、信仰告白に続いてささげものととりなしの祈りをした後、一同で「主の祈り」を祈ることもふさわしいことである。その場合、主の祈りの後に賛美を歌い、派遣と祝祷によって礼拝を終える。)

IV. 派遣

賛美の歌

【賛美歌、詩篇歌、シメオンの歌などが歌われる。】

派 遣

【牧師は次のような派遣と祝福の言葉を告げて散会を宣言する。】

- A. 牧 師：平和のうちに行きましょう。主を愛し、主に仕えましょう。
- B. あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを受け、また、わたしがあなたがたに教えておいたすべてのことを守るように彼らに教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。(マタイ 28 : 19～20)
- C. 目を覚ましていなさい。堅く信仰に立ちなさい。強くありなさい。いっさいのことを愛をもって行いなさい。(I コリント 16 : 13～14 より)
- D. 聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。(使徒 1 : 8)

祝福／祝祷

【牧師は神の祝福を聖書の言葉をもって会衆に告げ、会衆はアーメン、ハレルヤなどで応答する。必ずしも牧師と会衆の応答形式でなくてもよい。】

- A. 牧 師：主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。アーメン。(II コリント 13 : 13)
会 衆：アーメン。神に感謝。／ (もしくは) ハレルヤ！神に感謝。
- B. 主があなたを祝福し、あなたを守られますように。主が御顔をあなたに照

らし、あなたを恵まれますように。主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。(民数記6：24～26)

C. どうか、望みの神が、あなたがたを信仰によるすべての喜びと平和をもって満たし、聖霊の力によって望みにあふれさせて下さいますように。(ローマ15：13)

D. 永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエス キリストを死者の中から導き出された平和の神が、イエス キリストにより、御前でみこころにかなうことを私たちのうちに行い、あなたがたがみこころを行なうことができるために、すべての良いことについて、あなたがたを完全な者としてくださいますように。どうか、キリストに栄光が世々限りなくありますように。アーメン。(ヘブル13：20～21)

(optional：派遣と祝福・祝祷の順序は入替え可能である。)

V. 洗礼

【直前の賛美が終わるとともに受洗者は洗礼盤、あるいは講壇の前に進み出る。】

制定のみことば

私たちの主イエス・キリストが洗礼を定めた、福音のみことばを聞きましょう。

『マタイ福音書 28 章 18～20 節』

「イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」教会は、主イエスのこの命令に従って、信者とその子供たちに洗礼を授けるのです。

(optional : 聖書は次のものを朗読してもよいが、キリストが洗礼を制定したことを強調する必要がある。ヨハネ 3 : 1～8、使徒 36～42 節、ガラテヤ 3 : 26～28)

洗礼の教え

a. 成人洗礼において

洗礼は私たちが神のものであることを示すために、神がお命じになられ、主キリスト自ら制定された契約のしるしであり証印です。神は、ご自身の御子イエス・キリストによって、私たちを罪と死から救い出し、主の死と復活に結び付けてくださいました。

それゆえ、『ローマ人への手紙 6 章 3～4 節』には次のように記されています。「それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたのではありませんか。私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩み

をするためです。」

主イエス キリストの十字架の死によって、私たちの古い人は死んで葬られました。今や私たちはキリストの復活によって、永遠の命によみがえらされた、新しい人なのです。聖霊と水によって、私たちはキリストに接ぎ合わされ、キリストのからだである教会の一員とされ、キリストの愛と平和と義の働きに加えられるのです。

それゆえ、皆さん、この礼典を行なうにあたって、私たち自身の洗礼をも喜びとともに思い起こしましょう。

b. 幼児洗礼において

私たちは、洗礼によって神が制定された恵みの契約に入り、神はこの契約において、私たちに新しいいのちを与え、悪から守り、愛のうちに育ててください。

恵み深い神は、はじめから、この契約に私たちの子どもたちも含めてくださいました。生ける神は、アブラハムを召して、次のように契約を立てて祝福を約束してくださいました。

「わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、そしてあなたの後のあなたの子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。わたしがあなたの神、あなたの後の子孫の神となるためである。」(創世記 17 : 7) 時いたって、神は、ご自身の御子イエス・キリストを遣わし、私たちの救い主としてくださいました。主は、十字架の死によって贖いを成し遂げ、死者の中からよみがえられて、罪の赦し、新しいいのち、御国の祝福をお与えくださいました。主イエスは、この恵みの契約が子どもたちにも約束されていることを明言して、次のように仰せになりました。

「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちのものです。」(マルコ 10 : 14)

それゆえ、神のすべての約束は私たちと同様に、子どもたちのものでもあります。そして、子どもたちは、洗礼によって神の子どもとして聖別されて

いる恵みを教えられなければなりません。それは、子どもたちが成長したときに、彼ら自身の信仰と献身によって、神に従うようになるためです。

信仰告白 【受洗者を紹介し、次のように信仰告白を導く。】

a. 洗礼志願者（成人）に対して

長老：（ ）教会の小会は、信仰上の知識と敬虔について慎重に試問し、（ ）兄弟／姉妹に洗礼を授けて教会の交わりに受け入れることを認めました。

牧師：（ ）兄弟／姉妹、あなたは洗礼を授けられることを望みますか？
(望みます。)

牧師：今ここに、洗礼を志願するあなたは、主イエス・キリストを信じる信仰を言い表し、教会の信仰を告白することが求められています。それにより、あなたは、神の恵みの契約にあずかって、新しい命に養われ、悪から守られ、愛のうちに育まれるのです。

1. （ ）兄弟／姉妹、あなたは、天地の造り主なる生ける神のみを信じますか。 (信じます。)
2. あなたは、自分が神の御前に罪人であり、神の怒りに値し、神のあわれみによらなければ、望みのないことを認めますか。 (認めます。)
3. あなたは、主イエス キリストを神の御子、また罪人の救い主と信じ、救いのために福音において提供されているキリストのみを受け入れ、この方のみ依り頼みますか。 (依り頼みます。)
4. あなたは、聖霊の導きに信頼し、キリストのからだなる教会の一員にふさわしく生きることを決心しますか。 (決心します。)

* 「使徒信条」を省略する場合は28頁の「誓約」2項を続ける。

b. 幼児の保護者に対して

長老：（ ）教会の小会は、（ ）兄弟／（ ）姉妹の子
である（ ）兄弟／姉妹に洗礼を授けて、教会の交わりに受け入
れることを認めました。

牧師：（ ）兄弟／（ ）姉妹、あなたがたは（ ）兄弟
／姉妹が洗礼を授けられることを望みますか？ （望みます。）
あなたがたは、神の恵みに信頼して、信仰によって歩み、あなたがたの
子どもに信仰を伝えることを約束しますか？ （約束します。）

牧師：今ここに、あなた（がた）は、イエス・キリストを信じる信仰を言い表
し、教会の信仰を告白することが求められています。

1. （ ）兄弟／姉妹、あなたは、天地の造り主なる生ける神のみを信
じますか。 （信じます。）
2. あなたは、自分が神の御前に罪人であり、神の怒りに値し、神のあわれみ
によらなければ、望みのないことを認めますか。 （認めます。）
3. あなたは、主イエス キリストを神の御子、また罪人の救い主と信じ、救
いのために福音において提供されているキリストのみを受け入れ、この方
にのみ依り頼みますか。 （依り頼みます。）
4. あなたは、聖霊の導きに信頼し、キリストのからだなる教会の一員にふさ
わしく生きることを決心しますか。 （決心します。）

* 「使徒信条」を省略する場合は28頁の「誓約」2項を続ける。

使徒信条 【受洗者のみならず、会衆も立って一同で、使徒信条により信仰を告
白する。】

牧師：会衆の皆さんもお立ちください。教会全体とともに、使徒信条によって
私たちの信仰を告白しましょう。

一同：わたしは天地の造り主、全能の父である神を信じます。

わたしはそのひとり子、わたしたちの主イエス・キリストを信じます。

礼拝式文 1

主は聖霊によってやどり、おとめマリアより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、よみにくだり、三日目に死人のうちからよみがえり、天にのぼられました。そして全能の父である神の右に座しておられます。そこから来られて、生きている者と死んでいる者とをさばかれます。

わたしは聖霊を信じます。きよい共同の教会、聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、永遠のいのちを信じます。 アーメン。

誓 約 【牧師は受洗者に次の質問をして信仰の誓約をさせる。】

1. () 兄弟／姉妹、あなたは神の栄光を現すために、最善を尽くして教会の礼拝を守り、奉仕し、教会を維持することを約束しますか。
(約束します。)
2. あなたは、日本長老教会の政治と訓練に服し、その純潔と一致と平和のために務めることを約束しますか。
(約束します。)

【ここで牧師は見えるようにかつ聞こえるように水を洗礼盤に注ぐのもよい。】

祈 り

牧 師：さあ、私たちの主なる神に感謝の祈りをささげましょう。

「永遠の神よ。あなたはすべて命あるものを、ご自身の恵みの力によって創造し、愛の賜物によって養い育ててくださいました。心より感謝と賛美をおささげいたします。創造のはじめに、あなたの御霊は水の上を覆い、あるみことばによってすべてのものが造られました。しかし、私たちはあなたにそむいてさ迷い、自分勝手な道を歩んできました。それにもかかわらず、あなたはノアの時代に、洪水によってすべての悪を滅ぼされ、新しい命の恵みを賜りました。アブラハムを選んで恵みの契約を与え、あなたの民イスラエルは、水を通して、奴隷の苦しみから救われて約束の地に導

かれたのです。そして、ついに私たちの救い主イエス キリストがお出でくださり、ご自身の死と復活によって、私たちを罪と死から救い出し、永遠の命に入れてくださいました。

主なる神よ。いま御前にある（ ）兄弟／姉妹を、あなたが永遠の恵みによって、ご自身のもとに近付け、救いの約束を与えてくださり、心から感謝いたします。それによって、キリストとともに葬られ、キリストの復活とも同じようになるのです。いま聖霊を豊かにお注ぎくださり、洗礼の水を聖別してください。どうぞ、信仰を告白して主につき従おうとしている／恵みによって主の子どもとされる（ ）兄弟／姉妹のすべての罪をきよめ、新しい命によみがえらせてください。この兄弟／姉妹が、キリストに接ぎ合わされますように。聖霊の力に導かれて、み心を行ない、キリストとともに歩めますように。父、子、聖霊のひとりの神に、賛美と尊厳と栄光がありますように。主イエス・キリストの御名によって。アーメン。」

洗 礼 【受洗者は洗礼盤の前にひざまずき、保護者は子どもを洗礼盤の前に差し出す。牧師は次のように受洗者の名を呼んで水を振りかけるか注ぐかして洗礼を授ける。】

牧 師：（ ）兄弟／姉妹、父と子と聖霊の御名によってあなたに洗礼を授ける。アーメン。

祈 り 【牧師は手を置いたまま次のように祈って祝福する。】

a. 成人洗礼において

「主よ。あなたのしもべである（ ）兄弟／姉妹を、天の恵みによって守ってください。兄弟が永遠にあなたのものとして保たれ、あなたの永遠のみ国にいたるときまで、日々あなたの聖霊によって満ち溢れますように。主イエス キリストの御名によって祈ります。アーメン。」

「（ ）兄弟／姉妹、あなたは神の子どもです！洗礼において、聖

霊の証印を押され、永遠にキリストに接木されました。」

b. 幼児洗礼において

「主があなたを祝福し、あなたを守られますように。主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。」ハレルヤ。アーメン。

教会員の誓約と歓迎 【会衆は誓約することによって、あるいは歓迎の言葉によって受洗者を受け入れる。】

a. 会衆に誓約を求めることもできる

牧 師：（ ）兄弟／姉妹は、洗礼によって聖なる公同の教会に受け入れられ、私たちとともに神の家族となりました。あなた方は、この兄弟／姉妹を愛をもって受け入れましょう。

あなた方は、キリストの愛によって（ ）兄弟／姉妹を受け入れ、神の助けによって互いに仕え合い、聖霊に導かれてともに歩むことを約束しますか。

教会員：約束します。

牧 師：主イエス キリストの平和が、あなたがたすべての者とともにありますように。

教会員：主の平和がありますように。

b. 会衆一同で歓迎することもできる

牧 師：（ ）兄弟／姉妹は、洗礼によって聖なる公同の教会に受け入れられ、神の家族に加えられました。

キリストにあって新たに洗礼を授けられた、この兄弟／姉妹を心から歓迎しましょう。

教会員：私たちは喜びと感謝をもって、あなた（がた）をキリストの教会に受け入れます。私たちはキリストにあってひとつだからです。私た

ちはあなた（がた）を愛し、励まし、支えることを約束します。また、あなた（がた）がキリストを深く知り従うために、惜しみなく助けます。

牧 師：主イエス キリストの平和が、あなたがたすべての者とともにありますように。

教会員：主の平和がありますように。

【受洗者を紹介し、歓迎する。】

* 「ささげもの」(20 ページ) に続くか、もしくは「VI. 主の聖晩餐 制定のみことば」(32 ページ) に続く。

VI. 主の聖晩餐

制定のみことば

牧 師:私たちの主イエス キリストが聖晩餐を定めた制定のみことばを聞きましょう。

【次の中から選んで朗読する】

マタイの福音書 26 章 26～29 節

マルコの福音書 14 章 22～26 節

ルカの福音書 22 章 14～20 節

ヨハネの福音書 6 章 53～58 節

コリント人への手紙 第一 11 章 23～29 節

聖晩餐の教え

【次のように、制定語の朗読の後に、聖晩餐の教えを告げる。】

A. 私たちの救い主イエス・キリストは、この聖晩餐を定め、ご自分の家族として新しく生まれ、接ぎ木された教会を養い育ててくださいます。キリストは、地上の目に見えるパンをご自身のからだの礼典とし、また、ぶどう酒をご自分の血の礼典としてお定めになりました。

私たちが、この礼典を自分の手で取り、それらを自分の口で食べて飲むその時に、私たちのいのちは真実に養われます。私たちが霊的ないのちのために、たましいで受け取るのは、私たちの唯一の救い主であるキリストの真実の体と血なのです。私たちはこのからだと血とを、たましいの手と口である信仰によって受け取るのです。

この祝宴は霊的な食卓です。キリストは、あらゆる祝福とともにご自身を私たちに与えてくださいます。

私たちは、この聖なる礼典に与かることによって、神と隣人に対する熱心な愛を行なうように、心を動かされるのです。

B. いま私たちが執り行おうとしている聖晩餐は、主イエス・キリストを想い起

こし、交わりを喜び、御国の訪れを待ち望む祝いの礼典です。

今思い起こしましょう。私たちの主イエス・キリストは、御父のもとからこの世に遣わされ、私たちのために神の律法を成就し、十字架の苦しみと死を耐え忍ばれました。主はご自身の死とよみがえりによって、恵みと和解の新しい永遠の契約を結んでくださいました。神を受け入れる人は、決して見捨てられることはありません。

今、主イエス・キリストとの交わりを感謝しましょう。主は世の終わりまで、いつも私たちとともにいてくださると約束してくださいました。パンを裂いて食すとき、主は永遠のいのちのパンとして私たちを強めてくださいます。また、杯から飲むことによって、主は私たちのうちにとどまり、豊かな実を結ばせてくださいます。

さあ信仰もって待ち望みましょう。パンと杯は、やがて御国が成就することのしるしであり保証です。栄光のうちに顔を合わせて主にお会いするときに、私たちは永遠の愛の祝福を味わうのです。

- C. わたしたちの主イエスは、渡される夜、主の聖晩餐と呼ばれる、ご自身のからだと血との礼典を制定し、世の終わりまで守るべきものとされました。それは、主の死による犠牲を記念し、そのすべての祝福を真の信者に保証するためです。また、キリストにある霊的養いと成長、キリストの戒めに対する従順、キリストの神秘的からだにおけるキリストとの交わりと信者相互の交わりのきずなど保証になるためです。

ですから、ふさわしい陪餐者は、見えるパンと杯にあずかりつつ、信仰によって十字架につけられてよみがえられたキリストと一つにされ、キリストの死によるすべての祝福を受けて養われます。

この祝福は、聖晩餐において単に象徴的に示されるのではなく、御霊の働きによって現実に私たちに与えられます。さらに、聖晩餐は、終わりの時にキリストが再び来られ、贖われたすべての民を栄えある子羊の婚宴に集めてくださることを、期待させてくれるものです。

(optional : 聖晩餐の教えは会衆にとって建徳的であるが、省略してもよい。)

感謝と聖別の祈り

【次のように牧師と会衆で呼び交わして感謝と聖別の祈りに導く。次のように応答形式で祈りを導くことができるが、必ずしも応答的でなくてもよい。もちろん祈りは自由にすることができる。】

牧 師：主があなたがたとともにおられますように。

会 衆：また、あなたとともに。

牧 師：心を高く上げましょう。

会 衆：私たちは主に向かって心を高く上げます。

牧 師：私たちの主なる神に感謝をささげましょう。

会 衆：感謝と賛美をささげることは私たちにふさわしいことです。

創造の感謝

牧 師：恵み深い神よ。喜びをもってあなたを賛美いたします。あなたは天地を創造し、私たちをご自身のかたちにお造りくださいました。そして、私たちが罪に墮落しても契約を保ってくださいます。私たちの主イエス キリストのゆえに感謝をささげます。主は過越しの小羊となり、私たちの救いのために犠牲となってくださいました。それゆえ、私たちはすべての聖徒と御使い、あらゆる被造物とともに、御名の栄光をほめたたえて喜びの声をあげます。

賛 美

(イザヤ 6:6、マルコ 11:9～

10)

一 同：聖なる、聖なる、聖なる、万軍の主。 その栄光は全地に満つ。ホサナ。 祝福あれ。主の御名によって来られる方に。 いと高きところに。 ホサナ。

キリストのみわざの想起

牧 師：栄光の神よ。あなたのみ子、私たちの主イエス・キリストをほめたたえ

ます。主は、私たちが罪の奴隷と死の重荷から救うためにおいでくださいました。人となって天より下り、私たちが愛して十字架の死にまで従われました。主は、私たちが荒野でさまよう時も、ご自身をマナとして与えて私たちをお養いくださいます。主がお受けくださった苦しみの杯は、私たちの救いの杯です。このパンと杯を感謝をもって受け、イエス・キリストによる贖いを喜びをもって祝います。それゆえ、十字架にかかり、よみがえられた主イエスを賛美して、心から私たちの信仰を告白いたします。

賛美

- 一 同：キリストは死なれ、キリストはよみがえられました。そして、キリストは再び来られます。

聖霊を求める祈り

牧 師：私たちの主なる神よ。どうぞ聖霊をお注ぎください。このパンと杯を聖別して、キリストのからだと血の聖餐に与らせてください。あなたの御霊によって、私たち主にあるすべての者を、生けるキリストにあって一つにしてください。主への信仰と希望と愛を保ち続けられますように。主よ、あなたの栄光の御国に私たちを呼び集めてください。

黙 禱

【黙禱のうちに、主の救いのみわざを思い起こし、感謝、悔い改め、新しい従順をそれぞれが祈る。】

主の祈り

【黙禱の後に一同で主の祈りを祈る。】

- 一 同：主の祈り

天にいます私たちの父よ。

御名があがめられますように。

御国が来ますように。

みこころが天で行われるように地でも行われますように。

私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください。

私たちの負いめをお赦しください。私たちも、私たちに負いめのある人
たちを赦しました。

私たちを試みに会わせないで、悪からお救いください。

国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです。アーメン。

(optional : 主の祈りがすでに祈られている場合は省略する。黙祷や主の祈りは
礼拝全体の流れに合わせて適宜用いる。)

平和のあいさつ

牧 師 : 神に感謝しましょう。キリストが私たちを一つにしてくださいます。

キリストの平和が、あなたがたすべての者とともにありますように。

会 衆 : (また、あなたとともに。) アーメン。

(optional : 平和の挨拶が、罪の告白と赦しに結びつけられて、すでになされて
いる場合は、これを省略してもよい。平和の挨拶を陪餐直後、感謝の祈りの前
に行なうことも、ふさわしいことである。)

パン裂き

(マタイ 26:26~27、I コリント 10:1~

17)

【牧師は、主イエスにならって、次のことばを告げながら、会衆に見えるよ
うにパンを取り、それを裂く。杯も同じようにして会衆に見えるように掲げ
て、みことばを告げる。】

牧 師 : イエスはパンを取り、祝福して後、これを裂き、弟子たちに与えて
言われた。「取って食いなさい。これはわたしのからだです。」

会 衆 : 私たちの裂くパンは、キリストのからだにあずかることではありません
か。パンは一つですから、私たちは多数であっても一つのからだです。

牧 師 : また杯を取り、感謝をささげて後、こう言って彼らにお与えになった。
「みな、この杯から飲みなさい。これはわたしの契約の血です。罪
を赦すために多くの人のために流されるものです。」

会 衆：私たちが祝福する祝福の杯は、キリストの血にあずかることではありませんか。

(optional：パン裂きはなされるほうが好ましいが、省略することもできる。
また、会衆の応答を省略しても良い。)

陪 餐

招 き 【牧師は次のように告げて会衆を主の食卓に招く。】

牧 師：主イエス キリストにある皆さん、主はご自分を愛する者、救いのために主にもみ信頼する者を、この聖晩餐の食卓に招いておられます。すでに洗礼を受けている方は、いずれの教会の信徒であっても、パンと杯をお受けください。

また洗礼を受けておられない方、また、幼児洗礼を受けても信仰告白をされていない方は、どうぞ今日主イエスを受け入れて、一日も早く陪餐する日を待ち望んでくださいますように。

このパンと杯は、神の民のための神からの賜物です。傷んだたましいをいやす力です。どうか主イエスがすみやかに来てくださいますように。

陪 餐 (I コリント 11:24～25)

【陪餐の仕方は多様であって、長老によって会衆席に配餐したり、会衆を聖餐桌に招いたりする。

次のみことばを告げたら、まず牧師が陪餐し、次いで配餐する長老たちが陪餐する。あるいは、配餐後に一同が同時に陪餐するものよい。】

牧 師：これはあなたがたのためのわたしのからだです。わたしを覚えて、これを行ないなさい。

会 衆：アーメン！

牧 師：この杯はわたしの血による新しい契約です。

これを飲むたびに、わたしを覚えて、これを行ないなさい。

礼拝式文 1

会 衆：アーメン！

(optional：配餐や陪餐中に、詩篇や賛美の歌を歌ったり、聖書を朗読したりするのよいい。)

感謝と賛美の応答

賛美

【一同で賛美と感謝の歌をささげるのはふさわしいことである。聖晩餐にちなんで賛美や詩篇 103 篇をもって賛美をささげるのもふさわしい。次のように交読するのも賛美の一つの形態である。】

牧 師：わがたましいよ。主をほめたたえよ。

会 衆：私のうちにあるすべてのものよ。聖なる御名をほめたたえよ。

牧 師：わがたましいよ。主をほめたたえよ。

会 衆：主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。

牧 師：主は、あなたのすべての咎を赦し、

会 衆：あなたのすべての病をいやし、

牧 師：あなたのいのちを穴から贖い、

会 衆：あなたに、恵みとあわれみとの冠をかぶらせ、

一 同：あなたの一生を良いもので満たされる。

(optional : 賛美を省略することもできる。この賛美と次の祈りを入れ替えることもできる。)

祈り

【陪餐を感謝する祈りは、牧師または長老が祈るか、もしくは一同でともに祈る。】

恵みの神よ。御子イエス キリストは、パンと杯によるこの聖なる食事を定めてくださいました。それゆえ、私たちはこれによって、キリストの体と血にあずかることができたのです。心より感謝と賛美をささげます。主が定めたこの大いなる愛のしるしを祝う者たちが、自分の歩みを通して贖いの実りを結ぶことができますように。永遠の御国に至るときまで、キリストとの交わりと聖霊の力によって私たちを強めてください。私たちの

礼拝式文 1

主イエス キリストの聖なる御名によって祈ります。アーメン。

(optional : この賛美と感謝を以下のささげものととりなしの祈りと一つにしてもよい。すなわち、陪餐後に賛美を歌い、ささげもの(献金)をささげ、陪餐の感謝ととりなしの祈りをささげる。)

*** 「ささげもの」に続く。(20ページ)**

礼 拜 式 文 2

礼拝式文 2 (全体の流れ)

I. 神の民の集い

礼拝の招き

賛美の歌

祈り／主の祈り

信仰告白／十戒

賛美の歌

II. みことばの宣教

祈り

聖書

説教

祈り

III. みことばへの応答・献身

賛美の歌

ささげもの (献金)

とりなしの祈り

(聖晩餐がある場合)

VI. 主の聖晩餐

序言

聖書

式辞

祈り

分餐

祈り

(洗礼がある場合)

V. 洗 礼

序言

聖書

祈り

誓約

洗礼

祈り

賛美

祝祷

IV. 派遣

賛美の歌

祝福／祝祷

礼拝式文 2

I. 神の民の集い

礼拝の招き

【神が私たちを礼拝に招いていることを示す、歓迎や恵みまた神の栄光を告げ知らせる、次のような聖書を用いることができる。会衆が積極的に礼拝に参加するために応答形式であってもよい。(礼拝式文1参照)】

司式者：恵みと愛と力に満ちた主なる神を礼拝しましょう。

A. 詩篇 96 篇 1～3 節

新しい歌を主に歌え。全地よ。主に歌え。主に歌え。御名をほめたたえよ。日から日へと、御救いの良い知らせを告げよ。主の栄光を国々の中で語り告げよ。その奇しいわざを、すべての国々の民の中で。

B. 詩篇 27 篇 1, 4, 6, 14 節

主は、私の光、私の救い。だれを私は恐れよう。主は、私のいのちのとりで。だれを私はこわがろう。私は一つのことを主に願った。私はそれを求めている。私のいのちの日の限り、主の家に住むことを。主の麗しさを仰ぎ見、その宮で、思いにふける、そのために。今、私のかしらは、私を取り囲む敵の上に高く上げられる。私は、その幕屋で、喜びのいけにえをささげ、歌うたい、主に、ほめ歌を歌おう。待ち望め。主を。雄々しくあれ。心を強くせよ。待ち望め。主を。

C. 詩篇 113 篇 1～4 節

ハレルヤ。主のしもべたちよ。ほめたたえよ。主の御名をほめたたえよ。今よりとこしえまで、主の御名はほめられよ。日の上る所から沈む所まで、

主の御名がほめたたえられるように。主はすべての国々の上に高くいまし、その栄光は天の上にある。

D. マタイの福音書 11 章 28～30 節

すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。

賛美の歌

【大いなる神をほめたたえて、詩篇歌、賛美歌などを喜びと感謝をもって歌う。】

祈り／主の祈り

【神をほめたたえる頌栄の祈りが礼拝の開会においてささげられるのがふさわしい。また、神が聖霊によって力強く働いてくださり、救い主があがめられるようへりくだって祈願し、自分たちの罪の告白と悔い改めを加えた祈りをささげる。司式者の祈りの後に一同で主の祈りをささげることもふさわしい。】

主の祈り

天にまします我らの父よ。

ねがわくはみ名をあがめさせたまえ。

み国を来たらせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。

我らの日用の糧を今日も与えたまえ。

我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ。

我らをこころみにあわせず悪より救い出したまえ。

国とちからと栄えとは限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

信仰告白／十戒

【神の恵みに対する応答として使徒信条などを用いて信仰を告白する（礼拝式文 1 参照）。ここで、十戒を一同で言い表すことは、神に対する感謝と従順をささげるのにふさわしいことである。】

使徒信条

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。

我はそのひとり子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、よみにくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天にのぼり、全能の父なる神の右に座したまえり、かしくより来たりて、生ける者と死ねる者とを審きたまわん。

我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、からだのよみがえり、とこしえのいのちを信ず。 アーメン。

十戒 出エジプト記 20 章 2～17 節

わたしは、あなたをエジプトの国、奴隷の家から連れ出した、あなたの神、主である。

あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。それらを拝んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神、わたしを憎む者には、父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。

あなたは、あなたの神、主の御名を、みだりに唱えてはならない。主は、御名をみだりに唱える者を、罰せずにはおかない。

安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。六日間、働いて、あなたのすべての仕事をしなければならぬ。しかし七日目は、あなたの神、主の安息である。あなたはどんな仕事もしてはならない。——あなたも、あなたの息子、

娘、それにあなたの男奴隷や女奴隷、家畜、また、あなたの町囲みの中にいる在留異国人も—— それは主が六日のうちに、天と地と海、またそれらの中にいるすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。それゆえ、主は安息日を祝福し、これを聖なるものと宣言された。

あなたの父と母を敬え。あなたの神、主が与えようとしておられる地で、あなたの齢が長くなるためである。

殺してはならない。

姦淫してはならない。

盗んではならない。

あなたの隣人に対し、偽りの証言をしてはならない。

あなたの隣人の家を欲しがってはならない。すなわち隣人の妻、あるいは、その男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを、欲しがってはならない。」

賛美の歌

【神の栄光をほめたたえとともに、キリストの救いのみわざを感謝する賛美の歌をささげる。】

Ⅱ. みことばの宣教

祈り

【みことばを読む前の照明祈祷として祈るだけではなく、牧会祈祷として包括的な祈りをささげることにもふさわしいことである。その場合直前の賛美の歌に続いて教会の消息などが報告され祈祷課題が提供されることもふさわしいことである。】

聖書

【聖書は主に説教箇所が朗読されるが、旧約聖書と新約聖書から複数の聖書が朗読されるのもふさわしいことである。複数の聖書が読まれるときには、間に賛美の歌や詩篇歌などが歌われてもよい。(礼拝式文1参照)】

説教

【聖書朗読の前に祈りがささげられなかった場合には説教の直前に牧師によって照明祈祷や牧会祈祷がささげられてもよい。】

祈り

【説教後にみことばの感謝をささげ、説教が良く適用されるようにとりなしの祈りがささげられる。】

Ⅲ. みことばへの応答・献身

賛美の歌

【この賛美の歌は説教に結び付けられた応答的なものがささげられるとよい。】

***洗礼がある場合は「V. 洗礼」に続く。(50 ページ)**

***主の聖晩餐がある場合は「VI. 主の聖晩餐」に続く。(55 ページ)**

ささげもの (献金)

【ささげものと前の賛美の歌は入れ替え可能である。また、ささげものをささげる直前に、教会の消息や働きに関する報告がなされて祈祷課題を提供することもふさわしいことである。】

とりなしの祈り

【この祈りは会衆によってささげられるとよい。】

IV. 派遣

賛美の歌

【神への感謝と栄光をほめたたえる賛美の歌を歌う。】

祝福／祝祷

【祝福／祝祷の際に会衆を送り出す派遣のことばが宣言されるのもふさわしいことである。(礼拝式文1 参照)】

V. 洗礼

【以下の洗礼の式文は「日本長老教会式文」2004年改訂版である。】

(1) 幼児洗礼式

- *信者の家庭に生まれた子どもは、生まれながら恵みの契約のうちに入れられており、適当な時期に両親（または方親）に抱かれて幼児洗礼を受け、教会に加えられる。
- *小会は、幼児洗礼を受ける子どもの両親に、必要に応じて適当な教育と指導をし、小会の試問を経て幼児洗礼式を執り行う。
- *幼児は、自ら信仰告白をする能力がまだないので、成人したときに信仰告白ができるよう、教え導くのは、両親と教会の責任である。

序 言（受洗の幼児と親は前に）

これより（ ）兄弟／姉妹の洗礼式を執り行います。

生ける神は、アブラハムの世に、「わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、そしてあなたの後のあなたの子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。わたしがあなたの神、あなたの後の子孫の神となるためである。」（創世記17：7）と約束されました。

以後、キリストの教会は、この契約の上に建てられてきました。この約束の中には子どもたちも含まれており、したがって教会は、信者とその子どもによって成り立っています。

救い主イエス キリストご自身も、「子どもたちをわたしのところに来させなさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちのものです。」（マルコ10：14）と宣言され、子どもが神の契約に属していることを明らかにされました。

いま行われる幼児洗礼は、あなた（がた）の愛する子どもがその神の契約の子であることを新たに覚えるしるしです。

聖書（次のうちから選んで朗読する）

マタイの福音書 19 章 13～15 節

マルコの福音書 10 章 13～16 節

ルカの福音書 18 章 15～17 節

祈り

全能の主にして恵み深い神よ。あなたが私たちと永遠の契約を結び、それを果たしてくださる主であることを感謝いたします。その恵みのもとに、今、兄弟姉妹を立てて、与えられた幼子の保護者としての責任を自覚させていただきます。

この礼典を祝福の時としてください。私たちの主イエス キリストの御名によって祈ります。アーメン。

誓約（受洗者の親 保護者は、司式者の質問に対して一つ一つ返答する）

1. あなた（がた）は、あなた（がた）に与えられた幼子が恵みによる契約の子であることを信じますか。（信じます。）
2. あなた（がた）は、幼子に、イエス キリストの血による罪の贖いと、聖霊による新生の恵みが必要であることを認めますか。（認めます。）
3. あなた（がた）は、自分の救いのためにイエス キリストに依り頼むように、幼子の救いのためにも、唯一の救い主イエス キリストに依り頼みますか。（依り頼みます。）
4. あなた（がた）は、神の恵みに依り頼み、幼子の前に敬虔の模範を示し、幼子とともに、また、幼子のために、教理を教え、みことばに基づく主の薫陶と訓戒のうちに幼子を養育するよう努めることを約束しますか。（約束します。）

洗礼（司式者は、次のことばを宣言し、水を注ぐか、振りかけるか、沈めるかして洗礼を授ける）

() 兄弟／姉妹、父と子と聖霊との御名によって洗礼を受ける。
アーメン。

祈り

恵み深い主なる神よ。私たちは、この礼典において、自らが神の永遠の契約の民であるとの思いを新たにさせられました。これも、ただ御子イエス キリストの十字架による贖いの恵みによることを覚えて、御名を賛美いたします。

願わくは、あなたが授けたもうたこの幼子を、あなたの契約の子として、教会に加え、御霊の導きのもとに置き、やがて信仰を告白するときまで、災いから守ってくださいますように。また、教会がそのために助け、祈り続けますように。

御子イエス キリストの御名によって祈ります。アーメン。

賛美

祝 祷

(受洗者を会衆に紹介する)

* 「ささげもの」に続く。(48 ページ)

(2) 成人洗礼式

* 洗礼は主の聖晩餐とともに新約の聖礼典であり、教会の純正さを示すしるしとして、また救いの有効な手段として、主のものとなったものが、教会に加えられることを記念するものである。小会は、洗礼志願者に対し適当な教育と訓練をし、小会の試問を経て洗礼式を執り行う。

* 司式者と受洗者、および信徒は、これを制定されたキリストの祝福と聖霊の働きにあずかりつつ、霊的準備と敬虔な心と厳粛な態度をもって、これを守るべきである。

序 言

これより () 兄弟／姉妹の洗礼式を執り行います。

洗礼は、父と子と聖霊の御名による水の洗いによって、この兄弟／姉妹がキ

リストに接ぎ木され、恵みの契約の祝福にあずかり主のものとしてこの教会に加えられることを記念いたします。

一同も、洗礼に現される特権に思いを留め、顧みとへりくだりと感謝をもって、誓いを新たにしますように。

聖書（次のうちから選んで朗読する）

マタイの福音書 28 章 18～20 節

ヨハネの福音書 3 章 1～8 節

使徒の働き 2 章 36～42 節

ローマ人への手紙 6 章 1～11 節

ガラテヤ人への手紙 3 章 26～28 節

誓約（受洗者は、司式者の質問に対し一つ一つ返答する。司式者は次のように述べる）

小会は、信仰上の知識と敬虔について慎重に試問し、この兄弟／姉妹を教会の交わりに受け入れることを認めました。

今ここに、洗礼を志願するあなたは、次の信仰を告白し、誓約することが求められています。これにより、あなたは神と教会とのおごそかな契約に入れられるのです。

1. （ ） 兄弟／姉妹、あなたは、天地の造り主なる生ける神のみを信じますか。 （信じます。）
2. あなたは、自分が神の御前に罪人であり、神の怒りに値し、神のあわれみによらなければ、望みのないことを認めますか。 （認めます。）
3. あなたは、主イエス キリストを神の御子、また罪人の救い主と信じ、救いのために福音において提供されているキリストのみを受け入れ、この方のみ依り頼みますか。 （依り頼みます。）
4. あなたは、聖霊の導きに信頼し、キリストのからだなる教会の一員にふさわしく生きることを決心しますか。 （決心します。）
5. （ ） 兄弟／姉妹、あなたは神の栄光を現すために、最善を尽くし

て教会の礼拝を守り、奉仕し、教会を維持することを約束しますか。

(約束します。)

6. あなたは、日本長老教会の政治と訓練に服し、その純潔と一致と平和のために努めることを約束しますか。 (約束します。)

洗 礼 (司式者は、次のことばを宣言し、水を注ぐか、振りかけるか、沈めるかして洗礼を受ける)

() 兄弟／姉妹、父と子と聖霊との御名によって洗礼を受ける。
アーメン。

祈 り

恵み深き聖なる神よ。今、永遠よりのあなたの選びは現れて、ここに () 兄弟／姉妹が主イエス キリストの贖いを信ずる告白を公けにして、キリストの教会に加えられました。

ここに現された貴き愛のみわざを賛美いたします。願わくは、今後、兄弟／姉妹が聖霊の導きのもとに、誘惑に打ち勝ち、教会の徳を建て、主の御栄光のために生きることを得させていただきますように。

主イエス キリストの御名によって祈ります。アーメン。

賛 美

祝 祷

(受洗者を会衆に紹介する)

*** 「ささげもの」に続く。(48 ページ)**

VI. 主の聖晩餐

【以下の主の聖晩餐の式文は「日本長老教会式文」2004年改訂版である。】

*主の聖晩餐は、洗礼とともに新約の聖礼典であり、教会の純正さを示すしるしとして、また救いの有効な手段として、教会のかしらであり、私たちの救い主であられるイエス・キリストを記念するものである。それで、司式者も会衆も、これを制定されたキリストの祝福と聖霊の働きにあずかりつつ、靈的準備と敬虔な心と厳粛な態度をもって守るべきである。

序 言

司式者：これより、私たちの主イエス・キリストが、渡される夜、世の終わりまで守るものとして定められた主の聖晩餐を取り行います。ここに、日ごろの信仰と生活を顧みて、神への献身と隣人への証しの心を新たにし、悔い改めと感謝、そして希望をもって備えることができますように。

聖 書

【次のうちから選んで朗読する。】

A. マタイの福音書 26章 26～29 節

また、彼らが食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福した後、これを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」また杯を取り、感謝をささげて後、こう言って彼らにお与えになった。「みな、この杯から飲みなさい。これは、わたしの契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。ただ、言っておきます。わたしの父の御国で、あなたがたと新しく飲むその日までは、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」

B. マルコの福音書 14章 22～26 節

それから、みなが食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福して

後、これを裂き、彼らに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしのからだです。」また、杯を取り、感謝をささげて後、彼らに与えられた。彼らはみなその杯から飲んだ。イエスは彼らに言われた。「これはわたしの契約の血です。多くの人のために流されるものです。まことに、あなたがたに告げます。神の国で新しく飲むその日までは、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」そして、賛美の歌を歌ってから、みなでオリーブ山へ出かけて行った。

C. ルカの福音書 22 章 14～20 節

さて時間になって、イエスは食卓に着かれ、使徒たちもイエスといっしょに席に着いた。イエスは言われた。「わたしは、苦しみを受ける前に、あなたがたといっしょに、この過越の食事をすることをどんなに望んでいたことか。あなたがたに言いますが、過越が神の国において成就するまでは、わたしはもはや二度と過越の食事をすることはありません。」そしてイエスは、杯を取り、感謝をささげて後、言われた。「これを取って、互いに分けて飲みなさい。あなたがたに言いますが、今から、神の国が来る時まで、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」それから、パンを取り、感謝をささげてから、裂いて、弟子たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与える、わたしのからだです。わたしを覚えてこれを行いなさい。」食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流されるわたしの血による新しい契約です。」

D. ヨハネの福音書 6 章 53～58 節

イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。人の子の肉を食べ、またその血を飲まなければ、あなたがたのうちに、いのちはありません。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠のいのちを持っています。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物だからです。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしのうちにとどまり、わた

しも彼のうちにとどまります。生ける父がわたしを遣わし、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者も、わたしによって生きるのです。これは天から下って来たパンです。あなたがたの父祖たちが食べて死んだようなものではありません。このパンを食べる者は永遠に生きます。」

E. コリント人への手紙 第一 11 章 23～29 節

私は主から受けたことを、あなたがたに伝えたのです。すなわち、主イエスは、渡される夜、パンを取り、感謝をささげて後、それを裂き、こう言われました。「これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。」夕食の後、杯をも同じようにして言われました。「この杯は、わたしの血による新しい契約です。これを飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。」ですから、あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです。したがって、もし、ふさわしくないままでパンを食べ、主の杯を飲む者があれば、主のからだと血に対して罪を犯すことになります。ですから、ひとりひとりが自分を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい。みからだをわきまえないで、飲み食いするならば、その飲み食いが自分をさばくことになります。

式 辞

司式者：主の聖晩餐は、すでにキリストに召された者たちにより、公に守るものです。洗礼を受けた方は、いずれの教会の信徒であっても、ともに陪餐されますように。ただし、まだ洗礼を受けておられない方、および幼児洗礼を受けても、信仰告白に至っておられない方は、一日も早く陪餐する日を待ち望まれますように。また、陪餐停止の戒規のもとにある方は、良いあかしを立てて、再びこの恵みにあずかる日を敬虔に期待されますように。

祈 り

聖なる天の父よ。今、私たちは、人となって、十字架にかかり、私たちの贖いとなってくださったイエス キリストの御苦しみをかしくみ、その言い尽くしがたい恵みに感謝いたします。

ここに用いられるパンと杯を聖別して、救い主の裂かれた肉と、流された血の贖いを思わせてください。そして、この聖晚餐にキリストが御霊によってご臨在くださって、私たちがいよいよ恵みによる救いを確かめ、主への誓いを新たにし、福音を証しすることができるようカづけ、お導きくださいますように。また、私たちが、唯一のかしらであるキリストに連なる一つのからだであり、互いに主にある家族であることを覚えて、ますます交わりを厚くし、やがて主イエス キリストとともに永遠に住まう神の国を待ち望む喜びを新たにしてくださいますように。

贖い主イエス キリストの御名によって祈ります。アーメン。

分 餐

【司式者は、まずパンを分餐者に渡して次のことばを述べる。】

司式者：また、彼らが食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福した後、これを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」(マタイ 26 : 26)

【分餐し終わった後、司式者は次のことばを述べて、いっせいにパンを食する。】

司式者：これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。(I コリント 11 : 24)

【次いで、杯を分餐者に渡して次のことばを述べる。】

司式者：また杯を取り、感謝をささげて後、こう言って彼らにお与えになった。

「みな、この杯から飲みなさい。これは、わたしの契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。ただ、言っておきます。わたしの父の御国で、あなたがたと新しく飲むその日まで、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」(マタイ 26 :

27～29)

【分餐し終わった後、司式者は次のことばを述べて、いっせいに杯をほす。】

司式者：この杯は、わたしの血による新しい契約です。これを飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。(Iコリント11：25)

祈り

私たちの贖い主イエス キリストの父なる神よ。私たちは、主の聖晩餐にあずかることができた恵みを心より感謝いたします。

この主との親しい交わりにおいて与えられた祝福によって、神の子、光の子らしく歩む誓いに生き、おのおのの十字架を負いつつ御国で祝うその日まで、この聖礼典を重んじ、守らせてくださいますように。

私たちの贖い主イエス キリストの御名によって祈ります。アーメン。

* 「ささげもの」に続く。(48ページ)

礼 拜 式 文 3

礼拝式文 3 (全体の流れ)

I. 神の民の集い

礼拝の招き

賛美の歌

祈り

主の祈り／信仰告白／十戒

罪の告白

赦しの確証

賛美の歌

平和のあいさつ

賛美の歌

(証し 特別賛美)

報告ととりなしの祈り

II. みことばの宣教

祈り

聖書

説教

祈り

III. みことばへの応答・献身

賛美の歌

ささげもの (献金)

祈り

(聖晩餐がある場合)

(洗礼がある場合)

IV. 派遣と祝福

賛美の歌

祝福／祝祷

VI. 主の聖晩餐

制定のみことば

聖晩餐の教え

感謝と聖別 (主の祈り)

平和のあいさつ

パン裂き

陪餐 (招き 配餐)

V. 洗 礼

制定のみことば

洗礼の教え

信仰告白 (使徒信条)

誓約

祈り

洗礼

I. 神の民の集い

(礼拝前の時間)

【礼拝前の時間、コーヒーなどを用意して交わりの時間をもつこともある。その時、CD 等を利用した賛美の曲や前奏曲などが流れていることもよい。プロジェクターを使用して、礼拝に関連するキリスト教絵画 イメージ 映像等を写しておくこともある。偶像礼拝にならないよう注意する。挨拶と共に、報告が先になされることもある。】

礼拝の招き

【前奏の中、心を静め、礼拝を始める。司会者が会衆に、心を神様に向けるため、礼拝への招きにふさわしい聖書箇所を朗読し、短い奨励を入れる事もよい。礼拝への招き、勧め、賛美等の箇所が選ばれる。司会者、もしくはソングリーダーが賛美をリードし、自然な流れの中、神に、礼拝に心が向けられるようにする。司会者が会衆と自然なコミュニケーションをとりつつ進めることもできる。】

A. イザヤ 55 章 6～8 節

「主を求めよ。お会いできる間に。近くにおられるうちに、呼び求めよ。悪者はおのれの道を捨て、不法者はおのれのはかりごとを捨て去れ。主に帰

れ。そうすれば、主はあわれんでくださる。私たちの神に帰れ。豊かに赦してくださるから。わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、わたしの道は、あなたがたの道と異なるからだ。——主の御告げ。——」

B. ルカの福音書1章68～70節

「ほめたたえよ。イスラエルの神である主を。主はその民を顧みて、贖いをなし、救いの角を、われらのために、しもベダビデの家に立てられた。」

(optional : 前奏や招きの言葉ではなく、賛美から礼拝を始めるのもよい。)

賛美の歌

(*ここで例として引用される曲目は、ミクタム プレイズ&ワーシップⅠ、同Ⅱより、以降ギリシア数字と曲番号で表記、これ以外のものもふさわしいものを用いることができる。)

【招きにふさわしい曲、もしくは礼拝のテーマに沿った曲、テンポのよい賛美の曲等を選曲するとよい。数曲続けて歌われることもある。ただ単純な賛美の言葉のくりかえしのような曲は、単体で用いるよりも、その根拠となるような、十字架について、よみがえりについて、主のみわざについて等が歌われる曲のあとに配置する事で、より意味を持ってささげることができる。それらの曲の合間に、司会者がごく短い勧めを入れることもふさわしい。】

「Ⅰ 81 我らの主に向かって」「Ⅱ33 御顔を拝するため」「Ⅱ 60 全地よほめよ」

「Ⅰ 128 威光 尊厳 榮譽」「Ⅰ 74 さあ賛美しよう」「Ⅰ 123 喜び叫べ」

「Ⅰ 67 私の願い」 etc...

祈り

【礼拝に招かれたことへの感謝と、礼拝を通し、今も生きておられる神ご自身が、会衆一人一人にご自身を現して下さるよう祈る。悔い改めや奉仕者のための祈りも献げられる。賛美の奏楽と共に祈ることもよい。】

主の祈り／信仰告白／十戒

【祈り／告白／朗読を通して、主の栄光を仰ぐと共に、主の御前における自分自身のあり方について、思い巡らす。聖書朗読もふさわしい。

聖書朗読として、「交読詩篇」や讃美歌の「交読文」（文体が難しく、2010年現在、普段使われていない言葉なので、会衆の理解のため、新改訳聖書等を利用するのもよい）を用いた交読、輪読等を行うこともできる。

会衆が意味を理解しながら礼拝できるよう、司会者等が、内容について短く説明を加えることも助けになる。】

罪の告白

罪の告白の招き

【司会者が聖書から罪の告白を促す。Iヨハネ1:9、ヤコブ5:16等。また、主の祈り、信仰告白、十戒、聖書朗読を通して、聖なる主の御前にふさわしくなかった歩みを思い巡らせるように勧める。】

A. ヨハネの手紙 第一1章9節

「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」

B. ヤコブの手紙5章16節

「ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。いやされるためです。義人の祈りは働くと、大きな力があります。」

罪の告白の祈り

【会衆一同での黙祷、もしくは牧師と会衆の連祷、あるいは牧師 長老 代表者がささげることでもできる。祈りに聖書を用いることもできる。】

代表祈禱

「私たちの罪のため、イエス様が身代わりとなって罰を受けてくださったことを感謝します。罪深い私たちをお赦しください。私たちの心を新し

くして下さい。あなたのもとに引き寄せて下さり、あなたの赦しのうちにある喜びで私を満たしてくださいますように。」

(optional: 詩篇 51 篇、32 篇、25 篇、19 篇、6 篇 etc...をもとに祈るのもよい。代表者が配慮しつつ個人的な罪の告白を祈っても構わない。1 ヨハネ 1:5~10)

赦しの確証

【イエス キリストの十字架による赦しについて、聖書箇所を朗読し、赦された恵みを覚える。牧師 長老による短い奨励があってもよい。I ヨハネ 1:9、箴言 28:13~14、ローマ 7~8 章等】

A. 箴言 28 章 13~14 節

「自分のそむきの罪を隠す者は成功しない。それを告白して、それを捨てる者はあわれみを受ける。幸いなことよ。いつも主を恐れている人は。しかし心をかたくなにする人はわざわざに陥る。」

B. ローマ人への手紙 8 章 32~34 節

「私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありましょう。神に選ばれた人々を訴えるのはだれですか。神が義と認めてくださるのです。罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしていてくださるのです。」

賛美の歌

【キリストの赦しを覚え、感謝を持って賛美する。主に十字架による赦しがテーマである賛美がまず選曲される。数曲続けて賛美することもよい。曲の合間に平和の挨拶を挿入することもできる。】

「Ⅱ 61 なんという喜び (主に罪を赦され)」「Ⅰ 174 主イエスの十字架の血で」

平和のあいさつ

【キリストによって神と和解させられた主の民は、人間関係においても、和解の使者として、互いに交わりを保つ者である。会衆が周りの人々に挨拶をする時間を持つ。親しい間柄のためにこの時間があるのではなく、キリストの平和ゆえの時間であることを覚える。また、初めて会う人、初めて教会を訪れた人にも挨拶をし、歓迎するように促す。平和の挨拶の後に賛美が数曲歌われることもふさわしい。】

司式者：「互いに忍び合い～赦し合いなさい。～キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。～感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。」（コロサイ 3:13～17）

賛美の歌

【数曲選んで賛美する。讃美歌のアレンジ曲を取り入れる可能性もある。歌詞のわかりにくい曲は、司会者が歌う前に短く説明を入れると、会衆が礼拝する助けとなる。】

賛美「I 77 新しい歌を主に」「I 86 マジェスティ」「II 39 叫べ全地よ」「I 154 シャイン・ジーザス・シャイン」等。

（optional 1：I 21 主の教えを喜びとし」等、みことばをそのまま歌う曲も有益である。

（optional 2：信仰者の証しや賛美の奉仕があれば、吟味した上でここに加えることも可能である。便宜上特別賛美と表記したが、「(会衆) 賛美の歌」同様、「(音楽の賜物ある奉仕者による) 賛美の歌」、である。)

報告ととりなしの祈り

【とりなしの祈りのための教会の活動報告や感謝、公的に扱うことができるとりなしの祈禱課題について報告する。

礼拝の中でなされることがふさわしくないものに関しては、礼拝前、もしくは後において別途報告の時間を設ける。

【報告者とあらかじめ打ち合わせをしておく必要がある。】

(optional : 報告を礼拝前後において、とりなしの祈りのみ、ささげることもできる。)

Ⅱ. みことばの宣教

祈り

【御言葉に対する聖霊による照明を求めて牧師が祈る。】

(optional 1 : とりなしの祈りと共に続けて祈られることもふさわしい。)

(optional 2 : 説教の前の祈りとして、「I 109 あなたのみことば」「I 164 主の御言葉待ち望む」等の賛美を歌うこともよい。報告前の賛美の歌の最後に組み入れることもできる。)

(optional 3 : 照明祈祷は聖書朗読の後、説教の直前になされてもよい。)

聖書

旧約聖書と新約聖書から、もしくは旧約、使徒書、福音書から朗読される。

(optional : 朗読される聖書が複数でなく、説教のテキストだけでもよい。)

説教

【視覚教材を用いる事や、説教のアウトラインを用意する事も助けとなる。プロジェクターやOHP等も活用できる。】(聖書における視覚教材に関して、「子供を立たせるイエス様」マタイ 18 : 2、「デナリの肖像」マタイ 22 : 19 などがある。)

祈り

【御言葉の照明、牧会祈祷がささげられる。】

Ⅲ. みことばへの応答・献身

賛美の歌

【説教のテーマに合わせて、応答の賛美にふさわしい曲を選曲する。】

「Ⅱ14 御手の中で」「Ⅱ66 主に栄光あれ」「Ⅱ68 静まれ我が魂よ」「Ⅱ82 パワーオブユアラブ」等

ささげもの（献金）

【ささげもの（献金）は神への感謝と私たちの献身のしるしとしてささげられる。】

「Ⅰ 23 神の国と神の義を」「Ⅰ 84 子羊イエスよ」「Ⅰ 140 すべてのよきもので」「Ⅰ 173 感謝と喜びを」「Ⅱ 1 大いなる方に」等

（optional：ささげものを集める時に、音楽を奏でたり、聖歌隊などが賛美を歌ったり、一同で賛美を歌うこともふさわしいことである。）

とりなしの祈り

【ささげものをきよめて、主の御用のため、お使い下さるよう祈る。】

IV. 派遣

賛美の歌

【栄光を神に帰する賛美が選ばれる。また、派遣の内容の賛美もふさわしい。】

「I 83 栄光イエスにあれ」「I 158 天のわが父」等

祝福／祝祷

【牧師は会衆一同の上に神の祝福を求めて祈る。】

(洗礼・主の聖晩餐に関しては、礼拝式文1、2をご参照ください。)

日本長老教会礼拝式文〈制定〉

編集：日本長老教会 礼拝式文検討委員会

2010年11月23日 第19回大会決議

発行：2011年11月20日

印刷：株式会社アガペ

日本長老教会 大会事務所

〒203-0004 東京都東久留米市氷川台 1-8-15 宣教センター2F

Tel/Fax 0424-76-3305